

もっと若葉台を

第18回

「若葉台のシンボルはなに鳥？」

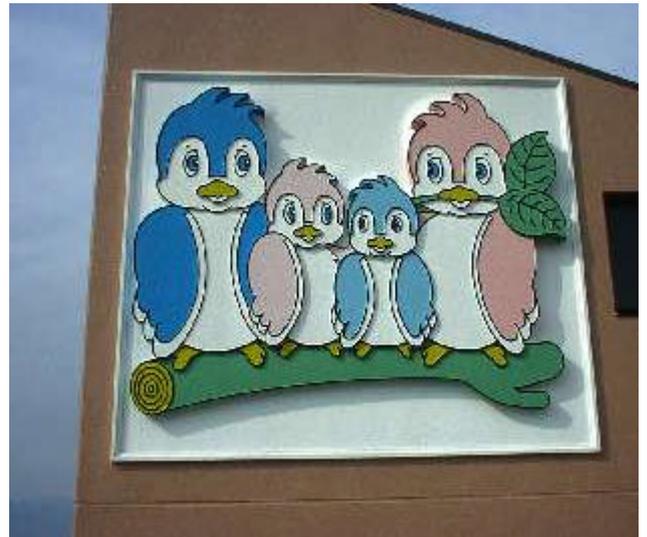
連合自治会の資料では、なんと若葉台でも常時 20 数種類の野鳥が観察出来るらしい。雀・カラスなどは留鳥、ウグイス等は漂鳥、ツバメやカルガモは渡り鳥と分類されている。

では若葉台各棟の屋上の鳥は何でしょう。椋鳥かホオジロかと色々悩んでいる処に、「鳩に決まっているじゃないか」の声がして、それ以来鳩以外には見えなくなってしまった。ドバトと呼ぶべきかキジバトと呼ぶのかは判らないが、デッポポー。

いや、1丁目からは、異議ありの声が聞こえてきた。これはコマドリが正解なのだそう。そう聞いたから第一自治会のソフトボールチームは「ロビズ」を名乗っているのだよ、と。

鳥の数で何丁目かを表しているのは皆さんもご存じの通りだが、そんな話はいつたい誰から聞いたのでしょうか。公式記録は見掛けないのだから、多分、語り伝えか。誰が言い出したのか、人から人へ、大人から子供へ。こんな風に伝説や語り伝えは伝わるのでしょうか。

定着してみれば何のことは無いのだが、公社の職員の発想にしては出来過ぎでは無いか。別にプランナーがいたのですかね。今では管理センターなどは飛ぶコマドリやパンを持った鳥など 5 種類以上もの広告用デザインを作って商売に利用している。ところで第 1 2 管理組合では組合封筒の鳩がくわえる葉が「もみじ」になっているのには、お気付きですか。



4丁目の4羽(4-28棟にて)